

## 3.1.1.6 西田結集型特別グループ

課題名 知識ネットワーク社会におけるコミュニティの知識創造支援に関する研究

所属職員名 \*西田豊明

## 活動概要

本研究では、今後、急速に発展することが予想される情報ネットワークが社会生活に与える影響を、社会心理学・認知心理学・情報科学の視点から総合的にモデル化し、社会生活を支援する知的インタラクションシステムの基礎を確立する。

今年度は、次の方針に従って研究を進めた。

- (1) コミュニティ支援システム「Public Opinion Channel (POC)」及びその発展型となるシステムを構築する。また、POCがコミュニティでの知識創造に貢献するかどうかを心理学的実験により検証する。
- (2) 人間と人工システムのコミュニケーションについて、状況依存性や身体性の面から研究を行う。コミュニケーションについて、社会・認知心理学からモデル化と評価の研究を行う。

## 活動成果

- (1) POCサーバシステムとWindows用POCクライアントPOC Communicator (図1)の開発。噂によるグループ内情報共有システムVoiceCafeの開発。
- (2) 会話型エージェントを用いた知識創造支援モデルが学会論文誌に採択された。またPOC上で動作する会話型エージェントPOCcasterを開発した(図2)。
- (3) 人間と人工物による協調的機能顕在化の過程を発現させるActive Affordanceという枠組みを考え、それを実証するために自律移動椅子の製作を行い、結果を国際会議等で発表した(図3)。
- (4) ネットワークコミュニティにおける合意形成と少数者影響についての理論的検証を進め、POCを利用した心理学的実験を行った。心理学的実験は、今後も継続して実施する。
- (5) コミュニティ・コミュニケーションの社会心理学的モデルの検討を進め、POCコミュニティから採集したデータの分析を行い、その結果からモデルを修正し、成果を発表した。
- (6) 知識創造プロセスの理論的考察及び実験手法についての検討を進めた。知識創造の前提となる理解プロセスについて、小集団のコミュニティを対象とした心理学的実験を行った。

POCに関しては、平成14年3月から開始されるKDDI株式会社のFTTHトライアルに参加して、東京都文京区と新宿区の約500世帯の家庭に対する本格的な実証実験を行って、データを収集し、実用化の基礎を築く予定である。



図1 POC Communicator の画面例



図2 POC caster のシステム画面例



図3 動く椅子  
ジェスチャーによって呼び寄せると、適切な位置・姿勢に寄って来て座ることができる。